

學大科法學大國帝都京

叢論濟經

號三第 卷二第

論說

●在外正貨處分ニ就テ

法學博士 小川郷太郎

●穀物定期取引論

助教授 河田 嗣郎

●戦後ノ米國ニ於ケル歐洲移民運動ト日本移民問題(二完)

講師 米田庄太郎

研究

●職工ノ災害扶助制度(工場法第十五條ノ施行)

法學博士 戸田 海市

●家中工業ニ就テ

同志社大學教授 瀧本 誠一

●本邦出生率増加ノ原因(二完)

講師 高田 保馬

雜錄

●經濟雜話(二)

法學博士 田島 錦治

●南北米經濟關係ト日支經濟關係戰後經濟問題

法學博士 神戶 正雄

●歐洲戰爭ト其主要ナル社會學的因素

講師 米田庄太郎

●職工扶助令ニ就テ

助教授 山本美越乃

●英國ノ食料品ト物價

助教授 河田 嗣郎

●獨逸ノ市統計所小觀

教授 財部 靜治

●まるさす生誕百五十年記念會記事

講師 本庄 榮治郎

穀物定期取引論

助教授 河田 嗣 郎

一	序言
二	穀物定期取引ノ發達
三	履行擔保ノ制度
四	定期取引ノ特性
五	定期取引ノ是非
六	定期取引ノ利弊

一 序 言

牛乳ヤ野菜ノ如キ運搬ノ不便ナルモノヲ除クノ外ハ、方今農産物ノ價格ハ地方ニ於ケル需要供給ノ關係ニ依ツテ定マルコトナク、汎ク世界的若クハ國民經濟的ナル需給關係ニ依ツテ決定セラルル。歐洲ニ在リテハ小麦其他ノ穀物ハ勿論世界的ナル相場ヲ有シテ居リ、乳酪乾酪ノ如キニ至ルマデ世界的ト迄ハ行カズトモ少クトモ國際的價格ヲ有シテ居ル。我國ノ米穀ハ其ノ產地ノ區域ガ比較的限局サレタルト、需要範圍ノ世界的ナラザルト、品質ガ特殊的ナルトノ爲ニ、世界的ナル

相場ヲ有スルコトガ出來ヌガ、ソレデモ猶ホ其ノ價格決定ハ地方的デナク日本全國ニ渉ル需給關係ニ依ツテ行ハレ、全國共通ノ價格ヲ有スルコトハ言フ俟タズシテ明カナル所デアアル。

此ノ關係ハ交通機關ノ發達ノ程度ト相須ツ所鮮カラズ、小麥其他ガ世界的相場ヲ有スルヲ得ルニ至ツタノハ、大洋航海ノ便充分ニ開ケテ以後ノ事デアリ、我國ニテハ陸上ノ交通ハ往時頗ル困難デアツタケレドモ海上ノ交通ノ自由デアツタ爲ニ、割合ニ早クヨリシテ米穀相場ハ地方的色彩ヲ脱去セムトスルノ傾向ヲ示シテ來タ。而シテ斯カル共通の相場ノ定マル場所ハ、交通ノ便商業ノ關係等ヨリシテ農産物集散ノ盛ニ行ハルル中心地デナクテハナラス。我邦ノ大阪ガ舊藩時代ヨリシテ米價決定ノ中心地タリシハ、其ノ地理的、並ビニ經濟的關係ヨリシテ諸藩ノ藏屋敷ガ多ク此地ニ置カレ所謂藏米賣買ノ盛ニ行ハレタコトヨリ來テ居ル。又下ノ關ガ米價決定上ニ重要ノ意義ヲ有シタノモ、北陸山陰地方ノ米ヲ海路此地ヲ廻由シテ大阪兵庫等ノ集散地ニ向クル中繼市場タリシガ爲デアアル。

斯カル農産物ノ集散地ニ在リテハ自ら又穀物其他ノ農産物ノ需給ヲ成可ク一所ニ集中セシメ多數ノ需要ト供給トガ同時ニ一所ニ集リ來ツテ自由ナル競合ヲ

行フニ依リテ需給ヲ調整シ又正當ナル價格ヲ造リ出サシメントスル要求ト必要トノ生シ來ルハ自然ノ數デアツテ、斯カル地ニ穀物取引所ノ發達スルハ至極觀易キ道理デアアル。而シテ一ト度斯カル穀物ノ主要集散地ガ自然的ニ定リ來リ其地ニ取引所取引ノ盛ニ行ハルルニ至レバ、全國若クハ其地ヲ中心トスル比較的廣キ地域内ニ於ケル穀物ノ價格ハ此ノ中心點ニ於ケル相場ヲ標準トシテ決定セラレ、生産者ノ利害ハ繋ガツテ此ノ中心相場ノ高低奈何ニ由リテ左右セラルルコトナル。從テ斯カル取引所ガ如何ニ組織セラレ如何ニシテ其ノ取引ノ行ハレ如何ニ取引貨物ノ價格ガ定メラレ其ノ定メラレタル價格ガ如何ニシテ公ニセラルルカハ頗ル以テ農業全般ノ利害ニ關係セザルヲ得ヌ。而シテ大多數ノ農産物ハ食料品タルガ故ニ其ノ需給ノ狀態及ビ價格ハ一般消費者ノ利害トモ放ス可ラザル關係ヲ有シ從テ穀物其他ノ主要農産物ノ取引特ニ定期取引ニ關スル問題ハ一般經濟界ノ重要ナル問題ヲ爲スコトト爲ルノデアアル。(1)

二 穀物定期取引ノ發達

取引所ニ於ケル生産品ノ賣買取引ハ、元之レ現物ノ賣買ヨリ發達シ來レルモノ

1) Dr. A. Buchenberger, Grundzüge der deutschen Agrarpolitik, 2. Aufl. Berlin, 1899. S. 249 fg.

デアツテ、ソノ現物取引 *Effektivgeschäft* ハ現今ト雖モ猶ホ行ハルル所デアアル。然ルニ此ノ現物賣買ハ年所ヲ經ル内ニ白ラ一定期間内ニ於ケル價格ノ騰貴若クハ下落ニ依リテ生ズル差額ニ就キテ輸贏ヲ爭フ所ノ取引ヲ生ムニ至リ、終ニ所謂定期取引 *Termingeschäft* od. *Blanko-Termingeschäft* 若クハ差額取引 *Differenzgeschäft* ノ發達ヲ見ルニ至ツタ。定期取引ニ於テモ勿論期限ノ最終ニ於テ實物授受ノ全ク行ハレヌデハナイケレドモ、元來現物ノ受渡ガ取引ノ目的ニハ非ズシテ相場ノ差額ノ得喪ガ目的デアアルカラ、期限ニ至ル以前ニ於テ盛ニ轉賣買戻ヲ行ヒテ其間ニ生ズル相場ノ差額ノミヲ授受シ以テ取引ノ局ヲ結ブガ常デアアル所カラ、之ヲ空取引トハ稱スル次第デアアル。

穀物ニ關スル此ノ定期取引ハ我國ト異リ歐米諸國ニテハ比較的近時ノ發達ニ屬スルモノデアツテ *Amsterdam, Liverpool, Paris, Wien, Budapest, Berlin, New York, Chicago* 等ノ穀物定期取引ノ盛ニ行ハルルニ至ツタノハ一八七〇年代以後ノコトデアアル。又之ヲ一般的ニ云ヘバ商品取引ハ證券取引ヨリ發達シ來ツタモノデアツテ、證券取引ハ十七世紀ニ於テ和蘭ニ和蘭東印度會社ノ設立セラレ一六〇五年ニ其ノ株券ノ價格大ニ變動セシ頃ヨリシテ行ハレ來リ、又和蘭西印度會社ノ設立セラレタ

ル一六二一年ヨリシテハ其ノ株券ニ關シテ同様ノ取引ガ行ハルルニ至ツタ。而シテ之ト殆ンド同時代ニ於テ商品取引モ幼稚ナガラニ初メテ行ハルルコトトナリ、十七世期ノ末葉ニ至ツテハ既ニあむすてゐるだむニ於テ穀物ニ關スル *Zeithandel* ヲ見タルコト一六九三年ニ之ガ禁止令ノ發布サレタル事實ニ依リテ之ヲ知ルコトガ出來ル。然ルニ一七二〇年頃ニハ又和蘭ニ於テ頗ル盛ナル商品ノ給付取引ハレ、此ノ取引ハ穀物、珈琲、油、油種其他ニ及ボサレ、其ノ取引ハ頗ル發達シタモノデアツテ *Pramiengeschäft* トシテ決シテ近時ノモノニ劣ラズ、現時ノ意味ニ於ケル定期取引トシテ之ヲ見ルニ於テ何等差支ナキモノデアツタ。然シ穀物、油、油種ニ關スル此ノ取引ハ其後再ビ禁止サルルノ運命ニ會シタ。

十七八世紀ニハ英國ニ於テモ既ニ證券ノ *Zeithandel* ヲ見タガ商品ノ同種取引ハ未ダ行ハレナカツタ。佛蘭西ニテハ革命前ニハ之ヲ見ナカツタガ革命以後ニハ盛ナル商品ノ期限取引ヲ見ルニ至ツタ。

下ツテ十九世紀ニ入りテヨリハ給付取引ハ一八二四年 *Die niederländische Handelsmaatschappij* ノ設立ト共ニ更ニ又和蘭ニ於テ隆盛ヲ見ルニ至リ、之ニ關スル取引規定モ十分有效ナルモノ行ハルルコトトナリ、昔日ノ單純ナル給付取引ハ進ンデ現時

ノ意味ニ於ケル完全ナル定期取引タルニ至ツタ。獨逸ニテモ十九世紀中諸所ニ商品取引ヲ見ルニ至ツタ。

右ノ如ク *Zeihandel* ノ起原ハ彼ノ植民地通商ノ爲ニ特許會社ノ起リ、遠隔ノ國々トノ通商貿易ガ盛トナツタ時期ニ存スルケレドモ、其ノ大ニ發達スルニ至ツタノハ十九世紀ノ後半ニ於ケル通信運輸機關ノ大發達ニ依リ國際貿易ノ隆盛ヲ見ルニ至ツタト共ニ表ハレ來リタルモノデアツテ、世界各地間ノ通信迅速ニ行ハレ貨物ノ運搬ガ安價ニ且ツ敏速ニ行ハルルニ至ツタトハ實ニ現今ノ商品定期取引ヲシテ終ニ能ク今日之ヲ見ルガ如キ發達ヲ遂グルヲ得セシメタル主要原因ト云ハナケレバナラヌ。而シテ此事ハ歐米間ノ交通運搬ノ盛トナツタ事實ニ依ツテ最も多ク促進セラレ、終ニハ英國ノ如ク從來タダ證券取引ヲノミ行ヒ來リタルモノモ時勢ノ必要ニ抗スル能ハズ一八四〇年代ヨリシテハ〔着荷若クハ〕船積ニ依ル商品ノ取引行ハルルニ至リ、先ヅ *Liverpool* ニ於テ棉花穀物等ノ定期取引行ハルルコトトナリ、次ニ又倫敦ニテモ石油砂糖珈琲銑鐵及ビ穀物ノ定期取引ヲ見ルニ至ツタ。(2)

現今穀物ニ關スル定期取引ハ之ヲ許ス國ト之ヲ禁止シテ居ル國トアル。維納ニテハ一九〇三年迄之ヲ許シタガ同年其ノ禁止ヲ見タ。ぶだべすとニテハ之ヲ許シ

2) Dr. C. J. Fuchs, *Der Warenterminhandel, seine Technik und volkswirtschaftliche Bedeutung*, Leipzig, 1891. S. 5-7.

テ居ル。倫敦デハ現物取引ノ大市場タル Mark Lane ノ外株式會社トシテ英國穀物取引ノ中心タル The Baltic タダ定期取引ノミヲ行フ所ノ The London Produce Exchange ト London Produce Clearing House トアリ又 London Corn Trade Association モアル。リダール、ぶーるニテハ The Corn Exchange ト Liverpool Corn Trade Association トガアル。巴里ノ取引所亦穀物定期取引ヲ爲シ、あむすてるだむノ取引所ニ於テモ同様デアル。露西亞ニテハ砂糖ガ定期取引ノ目的物トシテ許サルルノミデアツテ穀物ニ關シテハ許サレナイ。(3)

我邦ニ於ケル穀物定期取引ノ起源ハ歐米諸國ニ比シ頗ル古イモノデアツテ、夙ニ享保ノ初年頃ヨリ行ハレ享保十五年(西紀一七三〇年)ニハ公然幕府ノ特許ヲ得テ之ヲ行フニ至ツタモノデアアル。即チ彼ノ大阪堂島帳合米取引ナルモノ之デアツテ、國內諸藩地ヨリ大阪ノ其藩藏屋敷ニ輸送セララルル現米ノ延着ノ場合ニ其ノ繋ギ商内トシテ建物米ナルモノヲ設ケ、限月限日ヲ定メ延着日限迄ノ延賣買ヲ爲シタルヨリ漸次發達シ來ツタモノデアアル。而シテ其ノ斯カル取引ヲ爲スニ至ツタ所以ノモノハ多數ノ仲買人ガ諸藩ノ藏米ノ賣買ヲ行フ間ニ自ラ現米ノ受渡ヲ爲サナイデ見込ヲ以テ賣買ノ契約ヲ爲シ唯ダ價格ノ高低ニ依ル差金取引ヲ爲スヲ目

3) Dr. J. Grunzel, System der Handelspolitik, Leipzig, 1906. S. 169.

的トスルモノノ生シ來ツタニ因ル次第デアツテ、他方盛ニ行ハレタル正米ノ賣買ニ伴ヒ生ズルニ至ツタモノデアル。

帳合米取引ハ以後百餘年ノ久シキニ涉ツテ行ハレ其ノ方法モ發達シ組織モ整備シタガ、幕末ニ至リ世態漸ク變動ノ兆ヲ呈シ來リ幕府ノ財政難ノ爲メニ貨幣制度紊亂シ米價ノ變動甚シキヲ致ス有様トナツタニ加ヘテ、諸藩ノ藏米ノ大阪ニ來ルモノ漸クニ少ク正米取引ノ衰頽スルニ至ツタガ爲メニ漸次衰微ニ陥ツテシマツタ。然シ其後又石建米ト稱スル帳合米ニ似タル定期取引ガ一時行ハレ、明治ノ世トナツテハ又米穀取引再興ノ氣運熟スルニ至ツテ、幾多ノ變遷動搖ノ後終ニ又今日ノ隆盛ナル米穀定期取引ヲ東京大阪其他多數ノ地ニ見ルニ至ツタ。(4)

我邦ニ於テ取引所取引ガ右ノ如ク定期取引ニ於テ發達シ直取引ハ現今ニ至ルモ尙ホ餘リ振ハザルニ獨リ定期取引ノ隆昌ヲ極メテ居ルコトト、定期取引ガ證券取引ニ其ノ起原ヲ發セズシテ米穀取引ヲ以テ初マリ證券取引ハ明治ノ中葉以後ニ至ツテ初メテ大ニ行ハルルニ至ツタコトハ、頗ル歐米ノ事情ト異ツタ特色アル發達ノ徑路ヲ取ツタモノトシテ興味アル事ト云ハネナラヌ。我國ニ於ケル經濟ノ進歩ガ大ニ遅レ特ニ企業ノ發達最モ後レテ共同企業ノ行ハルルヲ見ルニ至ツタ

4) 田中太七郎著、日本取引所論二三頁以下

ノハ明治以後ノ事タルガ爲メニ、證券取引ノ目的物タル株券ニ事ヲ缺ギ從テ證券取引ハ頗ル毆米ニ比シテ後レヲ取ツ、タニ拘ラズ、農業國トシテノ發達ハ早クヨリ十分ニ行ハレ米穀取引ノ組織ノ複雑ヲ致シ其ノ集散地中ノ一所ヲ求メテ中心市場ト爲スニ至リ比較的狹キ場所ニ頗ル多量ノ米穀ノ集散サルル状態ヲ呈スルニ至ツタコトハ、米穀ニ關スル定期取引ヲシテ夙ニ發達スルニ至ラシメタモノデアツテ、此等ノ事實ハ研究上甚ダ興味アルモノト云ハザルヲ得ナイ。

三 履行擔保ノ制度

穀物取引所ノ組織ニ關シテハ一般ニ取引所ノ組織ニ就テ論述セラルル所以上ニ多ク加フ可キモノモナイガ、我國ノ如ク主トシテ株式會社組織ニ依ラズシテ、主トシテ會員組織ニ依ル歐米ノ取引所ニ在ツテハ、取引所自身ガ賣買契約履行ノ擔保ニ任ズルコトナク、取引ハ契約當事者相互ノ信用ヲ以テ行ハルルノデアアルカラシテ、其間自ラ別ニ履行ノ擔保ヲ爲ス所ノ機關ヲ必要トスルニ至リ、決濟金庫 *Warehouse Liquidationskasse* ナルモノノ發達ヲ見ルコトトナツタ。此ノ擔保機關ハ商品取引ニ在ツテハ特ニ重要ナル意義ヲ有スルモノデアアルカラ、茲ニ少シク其ノ組織ニ就テ叙ベテ置ク。

決濟金庫ハ右ノ如ク取引ニ關シテ賣買當事者ノ契約履行ヲ擔保スルモノデア
ルガ此ノ擔保ヲ爲スノ方法ハ通常決濟金庫自ラガ賣買當事者ニ對シテ契約上其
各々ノ相手方タル地位ニ立ツコトニ依リテ行ハルル。サレバ決濟金庫ハ大抵其地
ノ取引所ト組織上何等カノ連絡ヲ有スルヲ常トシ、取引所ノ仲買人タル者ノ中ヨ
リ人ヲ限リテ之ト擔保契約ヲ爲スモノデアツテ、金庫ト契約關係ヲ結ムデ居ル仲
買人ハ賣買取引契約ヲ爲ス毎ニ必ズ金庫ト擔保契約ヲ爲ス可キモノトセラレテ
アル。而シテ決濟金庫ハ其ノ業務ノ性質上巨額ノ資本ヲ必要トスルモノデアルカ
ラ、其ノ組織ハ大抵株式組織トナツテ居ル。

事情右ノ如クデアルカラシテ賣買當事者ハ實際ニ於テハ賣方ハ商品ヲ金庫ニ
對シテ賣リ買方ハ金庫ヨリ之ヲ買フト云フ關係ニ立ツモノデアツテ、契約相手方
ノ義務不履行ハ從テ何等直接ノ影響ヲ及ボスコトハ莫イ。不履行ハツマリ金庫ニ
對シテ行ハルルノ結果トナル次第デアル。而シテ決濟金庫ガ愈履行ヲ爲スノ已ム
ナキ場合ニハ賣方ニ對シテハ六分、買方ニ對シテハ三分ノ割引ヲ爲シテ履行ヲ爲
スガ例デアリ、此ノ差額ハ即チ金庫ノ所得ニ歸スルノデ、ツマリ履行ニ對スル報償
トシテ取得スル譯デアル。(5) 此種ノ擔保會社ハ當初珈琲取引ノ履行擔保ノ必要ヨ

5) Fuchs, a. a. O. S. 18ff.

リシテ一八八二年は一ふるニ於テ設立セラレ (Caisse de liquidation des affaires en marchandises au Havre) タノガ初リテ同年又紐育ニモ同様ノモノ設立セラレ、一八八七年ニハ漢堡あんどわーぶ巴里等ニ設置サレ、一八八八年ニハまるせいゆ倫敦 (London Produce Clearing House Ltd.) ろつてゐるだむ、あむすてるだむ等ニ設ケラレ、現今ニテハ殆ンド歐米各國ノ主要取引所都市ニ之ヲ見ルケレドモ、埃太利ト露西亞トニハ未ダ其例ヲ見ヌ。而シテ此等ノ擔保會社中穀物ニ對シテ履行擔保ヲ爲ス主ナルモノハ巴里、倫敦、ろつてもだむ等ノモノ之デアル。

右ノ如キ決濟金庫ノ制ノ存在セザル所ニ在ツテハ又別ニ margins, d'opis ノ制度ガ發達シテ居ル。之ハ價格變動ヨリ來ル危險ニ對スル前拂若クハ追拂ヲ賣買當事者相互ニ爲ス制度デアツテ、紐育及ビ市俄古ノ穀物取引ニ於テ最モ好ク發達シ、一般ニ行ハレテ居ル市俄古ノ農産物取引市場ニテハ賣買兩當事者ハ契約代金ノ一割ヲ擔保トシテ互ニ拂込ムモノトセラレ、紐育ニテハ穀物ニ就キテ云へバ小麦ライ麥大麥ハ「ブツシニル」ニ就キ金十仙、燕麥ハ同量ニ付キ金五仙ヲ拂込ムモノトセラレテ居ル。(6)

斯ノ如ク取引所以外ニ賣買契約履行擔保ノ任ニ當ル或種ノ機關若クハ制度ヲ

6) Grunzel, System der Handelspolitik. Leipzig, 1906. S. 167 fg.
Fuchs, a. a. O. S. 20.

必要トスル所以ノモノハ必竟會員組織ニ伴フ不便アルガ爲メデアツテ、此點ニ關シテ株式組織ハ取引所自身ガ此ノ履行擔保ヲ爲スト云フコトニ依リテ多大ノ利便ヲ有スルモノト云ハナケレバナラヌ。取引所ノ組織ニ關スル會員組織株式組織ノ兩者ニ就テハ其ノ利害ハ絶對的ニハ定メ難イモノデアルケレドモ、我國現時ノ問題トシテハ株式組織ハ會員組織ニ比シ行ハレ易ク又便益多キモノト云ハネバナラヌ。大資力ヲ有スル株式會社タル取引所ノ履行擔保ナクシテハ到底我が現狀ノ下ニ於テハ安全ナル取引ノ盛ニ行ハレ得キモノデナイ。會員組織ノ下ニ於テハ必ズヤ決濟金庫制ノ如キ特別ノ擔保機關ヲ必要トスルデアラウ。

四 定期取引ノ特性

定期取引ハ之ヲ法律上ノ性質ヨリ云ヘバ給付契約ノ一種ニ外ナラヌ。唯ダ其ノ特性トスル所ハ定期取引ニ在ツテハ賣買契約ノ主要部分即チ給付サル可キ商品ノ品質、數量ノ單位、給付ノ時期等ガ取引所ニ固有ナル習慣ニ依ツテ一定セラレ、大抵取引所ノ規定ト爲ラレテアリ、苟モ其ノ取引所ニ於テ行ハルル限リハ一切ノ取引ニ對シテ之ヲ一様ニシ、契約當事者ノ自由意思ニ依ツテ之ヲ左右スルヲ許サザ

ル點ニ存スル(7)

即チ先ヅ定期取引ハ代替的賣買ヲ爲スヲ其ノ特色ノ一トスルモノデアアルガ、穀物其他ノ商品取引ニ在ツテハ其ノ目的物タル貨物ノ代替性ハ證券ニ於ケルガ如ク完全ナルヲ得ズ必ズ品質ノ優劣ニ依ル差等ヲ見ルモノデアアルカラシテ、多少之ヲ人爲的ニ均一ノ品質ノモノト爲シ、以テ其ノ代替性ヲ十分ナラシムルヲ必要トスル。此ノ人爲的均一作用ニハ二ツノ方法ガアル。一ハ穀物ノ品質ニ付キ其ノ最下品位ヲ定メ之ヲ以テ代表的ノモノトスルモノ之デアツテ、他ハ一定品質ヲ有スル、或種類ノ穀物ヲ標準ト定メ此ノ標準ニ從テ他ノ種類ノモノノ品位ノ等級ヲ定ムルノ方法之デアアル。前者ノ例トシテハ例ヘバ倫敦ノ農産物取引所ニテハ露西亞産小麥ハ「一」ブッシェル「ニ」付キ六十一封度(「一」ヘクトリーター「ニ」付キ七十一、一「珽」ノ重量ヲ以テ最下品位トナシ、又維納ノ取引所ニ於テハ「一」ヘクトリーター「ノ」容量ニ付キ小麥ハ七六、ライ麥ハ七〇、大麥ハ六〇、燕麥ハ四〇「珽」ヲ以テ Usancengetreide ト爲シタルガ如キ、後者ノ例トシテハ紐育ノ取引所ニ於テ一切ノ穀物ハ或標準(即チ小麥極白(extra white)「一」號二號三號白、「一」號二號三號赤)ヲ定メ入荷サレタル穀物ハ悉ク検査員ニ依リテ検査セラレ此ノ標準ニ依ツテ品位ヲ區別セラルルガ如キ、又我

7) Dr. K. Wiedenfeld. Die Börse in ihren wirtschaftlichen Funktionen und ihrer rechtlichen Gestaltung vor und unter dem Börsengesetz. Berlin u. München 1898, S. 37.

國ニ於テ標準米ナルモノヲ定メ各地産ノ米穀ヲ格付表ニ依ツテ品位的ニ等級別ヲスルガ如キヲ示スコトガ出來ル。然ルニ又穀倉制ノ好ク發達シ穀倉證券ノ盛ニ行ハルル所ニ在リテハ、穀物ハ之ガ爲メニ其ノ代替性ヲ完全ニセラレ賣買ニ當ツテハ實物ノ品質ハ之ヲ問フコトナク全ク證券ヲノミ見テ之ヲ以テ取引ノ目的トスルヲ例トシ、市俄古ニ於テ其ノ適例ヲ見ル次第デアル。(8)

次ニ定期取引ノ特性ヲ爲ス點ハ取引セララル穀物ノ單位量ノ一定サレタルコトデアアル。例ヘバ巴里取引所ニテハ小麥粉ハ百袋ヲ取引單位トシ、柏林取引所ニテハ穀物取引ハ五〇〇Ztr.ヲ單位トシ、我國ニテハ米穀ハ東京大阪ノ兩取引所ニテハ百石其他ノ取引所ニテハ十石、大麥其他ノ雜穀ハ十石ヲ以テ取引單位トスルガ如キデアアル。

次ニハ定期取引ノ第三ノ特性トシテ契約履行ニ關スル期限モ亦當事者ノ隨意ニ定ムルヲ許サレズ必ズヤ取引所ノ定ムル所ニ依ラシムル。是レ即チ定期ノ定期タル所以デアツテ、例ヘバ其月限 „pro laufenden Monat“ (契約ノ出來タル曆月ノ終ヲ以テ履行ノ時期トスル) 一ヶ月限 „pro Jänner“ (契約後滿一ヶ月ヲ以テ履行ノ期限トスル) 二ヶ月限 „pro Jänner Februar“ 四ヶ月乃至六ヶ月限 „pro Jänner April“ トスルガ如

8) 本誌第一卷第六號及第二卷第一號所載拙稿「穀物倉庫論」三二頁以下及「穀倉證券論」六二頁以下參照

キデアアル。我國ノ定期限月ハ商品ニ付テハ總テ三ヶ月制ヲ用ヒ毎月末日ヲ以テ履行期日トナシ三ヶ月以前ヨリ賣買ヲ開始スル定デアアルカラ、當月限翌月限翌々月限ノ三種ノ取引ガ並ビ行ハルル次第デアアル。⁹⁾

右ノ如ク取引ニ於テ目的物ノ品位、單位量及ビ履行期限ノ一定サレテアルコトハ定期取引ノシテ容易ニ投機取引タラシムル所以デアツテ、定期取引ノ特性ハ實ニ此ニ存スル。勿論定期取引ハ賣買取引上投機ノ行ハレ得可キ唯一ノ道デハナイケレドモ、此道ニ依ル投機ハ其ノ方法ノ一定シ且ツ確實ナルガ爲メニ之ニ與ハル人人ノ範圍及ビ取引ノ範圍ヲシテ頗ル廣大ナラシムルモノデアアル。即チ定期取引ハ貨物ノ價格ノ高サ以外ハ一定セルモノナルガ故ニ賣買當事者ハ自己ノ代リニ他ノ人ヲシテ實際貨物ノ受渡ヲ爲サシメ自ラハ速ニ其ノ價格ノ差額ヲ授受シテ取引關係ヲ離脱スルコトガ出來ルカラデアアル。

仍テ今少シク投機ナルモノニ就イテ致ヘテ見ルニ、普通世俗ノ意味ニ於テハ投機ナルモノハ唯ダ一六勝負ノ賭博ナルガ如クニ解セラレテ居ルケレドモ、之ハ甚ダ當ラナイ。投機ハ常ニ必スシモ賭博タルニハアラズシテ市況ノ變動ニ對スル豫想ヲ以テ行ハルル經濟行爲ハ總テ之レ投機ナリト云フコトガ出來ル。而シテ方今

9) Dr. Grunzel a. a. O. S. 164-167.

ノ交易經濟組織ニ於テセラルル生産ガ市場ニ於ケル交易ノ爲メニ行ハルルモノタルノ傍、市況ノ變動ハ交易經濟ニハ當然ニ附隨スル避ク可ラザル現象タル限りハ、生産ハ必ズヤ此ノ市況ニ對スル多少ノ豫想若クハ推斷ノ下ニ行ハレザルヲ得ヌ。生産者ハ何レノ産業部類ニ屬スルモノタルヲ問ハズ、其ノ生産スル貨物ノ種類、品質、形狀、色彩等ヲ決定シ其ノ賣出ノ時機ヲ見計ヒ其ノ販賣ノ場所ヲ選定スル等ノ事柄ヲ爲シ企業ノ經營ヲ行フガ爲ニハ、必ズヤ其ノ貨物ニ對スル需要ノ多少ヲ豫想シ從テ生ズル價格ヲ致ヘ一般ニ所謂市況ヲ察シテ以テ之ヲ行ハナケレバナラヌ。從テ其ノ事業ハ多少トモニ右ニ述ブル意味ニ於ケル投機ノ分子ヲ加味セザラムトスルモ得可ラザルモノデアアル。即チ投機ハ現時ノ經濟組織ノ下ニ於ケル企業ニハ必要ニシテ避ク可ラザル條件トシテ伴ヒ行ハルルモノデアアル。要スルニ此ノ意味ニ於ケル投機ハ現時ノ企業ニハ必要ニシテ避ク可ラザル條件デアアルカラシテ、毫モ之ヲ排斥ス可キ性質ノモノデナイ。之アルガ爲メニ甫メテ能ク市場生産ハ行ハルルヲ得ルモノデアアル。

然ルニ彼ノ賭博的ナル投機ニ至ツテハ決シテ之レ企業ノ行ハル可キ條件ヲ爲スモノデ無イ。是ハ却テ既ニ生産ノ行ハレ市況ノ生ジタル上ニ於テ其ノ市況ノ變

動ニ由ル價格ノ高低ニ乗ジテ其轄ヲ利得セムトスルモノデアルカラ、原因タル生
 産ノ行ハルル條件ヲ爲スモノデアナクテ生産ノ行ハレタル結果トシテ生ズルモ
 ノデアアル。カルガ故ニ此ノ意味ニ於ケル投機ハ前ニ述ベタ意味ニ於ケルモノトハ
 頗ル其ノ性質ヲ異ニシ從テ其ノ經濟上ノ意義ヲ異ニスルモノデアアルカラ之ニ對
 スル可否ノ判斷モ自ラ異ラザルヲ得ヌ。而シテ此ノ賭博的投機ハ其行ハルルガ爲
 ニ市況ノ整理スルコトハナクテ却テ之ヲ紊シ、傾カントスル勢ヲ助ケ市況ノ變動
 ヲ故意ニ大ナラシメ、物價ノ常調ヲ紊スモノデアアルカラ、其行ハルルガ爲ニ生産者
 モ消費者モ頗ル適從スル所ヲ失ヒ、正常的ナル市況ノ如何ヲ知ルヲ得ヌ所カラ生
 産ヲシテ闇中摸索ニ陥ラシメ、消費ヲシテ準應スル所ヲ見出スヲ得ザラシムルノ
 結果トシテ、嘗ニ生産者及ビ消費者ノ私經濟ヲ傷ケルノミナラズ、一般ニ商品ノ需
 給關係ヲ不自然ナラシメ、經濟界全般ノ狀態ヲシテ頗ル其ノ堅實ヲ失ハシムルサ
 レバ此ノ賭博的投機ハ道德上ニ於テハ勿論ノコト經濟上ヨリ之ヲ見ルモ、毫モ其
 行ハレザル可ラザルノ必要ヲ見ズ、其ノ行ハレザルハ即チ之レ健實ナル經濟狀態
 ヲ實現セシムルヲ得ル所以デアアルカラ、之ヲ排斥スルニ於テ容赦無用デアアル。⁽¹⁰⁾
 而シテ今定期取引ニ於テ動モスレバ行ハレントシ、否現ニ大ニ行ハルルヲ避ケ

10) F. Hammersfahr, Getreidehandel und Terminbörsen. Antwerpen 1897. S. 11 fg.

難イ所ノ投機ハ、右何レノ意味ノモノデアアルカト云フニ、ソハ言フ迄モナク後者ノ意味ノモノデアアルカラ、定期取引ニ此ノ賭博的投機ノ行ハルルコトノ容易ニシテ又其ノ行ハルル範圍ノ擴大シ勝デアルト云フ事ハ、確カニ之レ定期取引ニ伴フ遊ケ難イ大イナル弊害タリト云ハネバナラヌ。即チ此事ノ爲メニ定期取引ハ需給ヲ調節シ價格ヲ公正ナラシムル働ヲ爲ス所ヨリモ、却テ之ヲ紊亂シ其ノ動搖ヲ甚シカラシメ一般ニ不健全ナル市況ヲ造リ出スニ獻與スル所多大ナルヲ否ミ難イノデアツテ、然モソハ偶然ニ然ルニアラズシテ實ニ定期取引ナルモノニ伴フ實質的屬性ヲ爲スモノデアアル。是レ定期取引ノ經濟上ノ效能多大ナルモノアルニ拘ラズ其ノ排斥セララルル所ノ理由アリ之ヲ辯護シ難キモノアル所以デアアル。

五 定期取引ノ是非

定期取引ノ是非ニ就テ致察スルニ當ツテハ、先ヅ以テ定期取引ハ適法ナリヤ否ヤニ就イテ考ヘテ見ナクテハナラヌ。此ノ問題ニ就テハ學者ノ見解區々ニ別レテ居ルケレドモ、吾人ノ見ル所ヲ以テスレバ、最後ノ賣方買方ニ依リ賣買貨物ノ現實ニ授受セララルル限リニ於テ定期取引ハ適法デアアル。例ヘバ茲ニ一酒造業者ガアツ

テ十一月ニ必要トスル米ヲ定期ニテ九月ニ買ヒタリトセムニ、其後彼ハ何等カノ理由ニ依リ其米ヲ必要トシナイコトニ爲リ之ヲ他ノ人ニ賣渡シ、運好クモ其間ニ米價騰貴シ爲メニ生ジタル相場ノ差額ヲバ利得シタリトセムカ、若クハ又不幸ニシテ其間ニ價格下落シ其ノ差額ヲバ損失トシテ支拂ヒタリトセムカ、得喪其何レナルニセヨ彼レノ此ノ賣買行爲ニ對シ何人ト雖トモ其ノ違法ナルヲ謂ヒ得ル者ハナカラウ。此ト同ジ理ニ依リテ今甲ナル者ガ乙ニ米百石ヲ賣リ、乙又之ヲ丙ニ賣リ、丙ハ丁ニ丁ハ戊ニ之ヲ賣リタリトセムニ、最後ニ受渡時期ニ於テ甲ハ現實ニ米百石ヲ引渡シ戊ハ又現實ニ之ヲ受取リタルニ於テハ誰カ又其ノ賣買行爲ノ不法ナルヲ道ヒ得ル者ガアラウヤ、而シテ此種ノ賣買ハ例ヘバーノ農生産者ガ尙ホ未ダ收穫サレザル即チ尙ホ田畑ニ成長シツツアル穀物ヲ期限付デ賣却シ、之ヲ買ツタ者ハ又之ヲ他ニ賣リ、轉々賣却サレテ最後ニ之ヲ買ツタ者ガ受渡ノ時期ニ至リテ其時恰モ收穫サレタル穀物ヲ其ノ農生産者ヨリ受取ルト云フ形ニ於テ屢々行ハルルモノデアツテ、之レ即チ定期取引ニ外ナラヌガ、誰カ又其ノ不法ナルヲ思フ者ガアラウゾ。

然レドモ事情若シ右ノ如クナラズ引渡ス可キ貨物ヲ全ク所有スルコトナク、又

之ヲ引渡ノ時迄ニ手ニ入ルルノ能力モナイ者ガ、唯ダ後日時期ヲ見テ之ヲ買戻シテ賣買兩價格間ノ差額ヲ利得セムガ爲メニ純投機的ニ空賣ヲ爲シ、又受渡ノ時期ニ貨物ヲ引取ル意思モナク能力モ無キ者ガ同ジク唯ダ後日時期ヲ見テ之ヲ轉賣シ以テ買賣兩價格間ノ差額ヲ利得セムガ爲メニ買投機ヲ試ムルガ如キ場合ノ賣買ハ、決シテ之ヲ適法ノモノト云フコトガ出來ヌ。即チ吾々が賣買ト云フ行爲ニ對シテ有スル合理的解釋ニ叶フモノト云フコトガ出來ヌ。唯之レ思惑ニ依リ空取引ヲ爲シテ差額ヲ利セムトシ、其ノ結果一方ニハ穀物相場ノ變動ヲ大ナラシメ、徒ラニ市場ノ正調ヲ亂スモノデアルカラ、之ヲ適法ノモノト爲スハ所詮吾々ノ有スル法律上ノ正當ノ觀念ト相容レザルモノデアル。

サレバ定期取引ノ適法ナルヤ否ヤニ就テハ一概ニ之ヲ決定ス可キ原則ノ存スルコトナク (11) 其行ハルル實際ノ場合ヲ見其ノ一々ニ就キテ之ヲ解剖吟味シテ適否ヲ決スルノ外ハナイ。

次ニ又定期取引ハ市況ノ將來ニ對スル豫見ノ下ニ行ハルルモノデアアルガ、元來市況ノ豫見ハ不可能ノコトデアアルカラ定期取引ハ從テ又不合理ノモノナリトノ見解ヨリシテ、定期取引ナルモノヲ其根本ニ於テ否認セムトスル者ガアル。成程若

11) J. Pollak, Die Börse in ihren Beziehungen zur Industrie, zum Handel und zur Landwirtschaft. Wien 1897. S. 12.

シ茲ニ云フ豫見ナルモノガ寸分間違ハヌト云フ意味合ノモノナリト解スルニ於テハ、市況豫見ノ不可能ナルヤ勿論ノ義デアツテ、畜ニ需給關係及ビ價格ノミナラズ一般ノ經濟現象ハ到底之ヲ斯ノ如キ意味ニ於テ正確ニ豫見スルコトハ出來ヌ。

若シ穀物ノ取引ガ唯ダ現在ノ事實ヲ基礎トシテ其ノ上ニ確定ノ事實ヲ附加ヘテ正確ニ定メ得ル所ダケニ從テ行ハルルモノナリトスレバ、穀價ニ付キテハ現時ノ價格ニ對スル一定期間後ノ價格ハ、現價ニ利子ト倉敷料ト契約不履行ヨリ來ル危險ニ對スル保險料トヲ加ヘタルモノタルニ外ナラヌデアラウ。然レドモ經濟狀態ノ進ミ諸般ノ關係ノ複雑ヲ極ムルニ從ツテ穀價決定上ニ勢力ヲ及ボス諸要素ハ漸次其數ヲ増スモノデアツテ、一定期間後ニ於ケル穀價ハ決シテ右ノ如ク單純ナル計算ニ依リテ決定セラルルモノデハナイ。幾多ノ正確ニ豫定シ難イ事情ノ加ハリ來リ其ノ合同的ナル勢力ノ影響ニ依ツテ穀價ハ決定セラルル。然シ乍ラ今此ノ正確ニ豫定シ難イ事實ニ就テ、其ノ正確ニ豫定シ難イト云フ理由ニ依ツテ絶對的ニ之ニ對シテ豫定の打算ヲ行ヒ得可キモノデナイトスルハ、聊カ過ギタル見解ト云ハネバナラヌ。豫見ト云フコトニハ既ニ多少不正確ト云フ意味ノ含マレテ居ルモノデアアルカラ絶對的ニ正確ナル事ヲ豫メ知り得可カラザレバトテ、一概ニ豫

見ノ不可能ナルヲ云フ可キモノデハナイ。經驗其他ノ信據ス可キ材料ニ依リ多少トモニ正確ニ近イ豫見ノ爲シ得可キデアアルナラバ、即チ之ヲ基礎トシテ取引ノ方針ヲ定ムルコトガ出來之ニ依リテ行ハルル取引ハ臆テ又將來ニ於ケル價格ノ決定ニ對シテ重要ナル意味ヲ持チ得ルモノデアアル。

サレバ即チ定期取引ハ寸分間違ハザル正確サヲ以テ將來ニ起リ來ル可キ事實ヲ知り得從テ其ノ豫定スル價格ハ寸分間違ハザルモノタルヲ得可キモノデハナイガ、サレバトテ取引ガ唯ダ空想ニ依ツテ行ハレ遇然ヲ僥倖スルノミヲ目的トセザルモノタル限りハ、稍ヤ正確ニ近イ事實ヲ豫見シ、其ノ價格亦ヤヤ的中スルニ近イモノヲ定ムルヲ得ザルニシモアラザルコトハ之ヲ承認シナクテハナラヌ。(12)

ケレドモ論者中ニハ頗ル此ノ市況ニ對スル豫想ノ困難ト云フコトニ重キヲ置キ、定期取引ハ知り得可カラザル將來ノ事實ヲ條件トシテ之ヲ行フモノデアアルカ
ラ其ノ成敗ハ全ク遇然ノ然ラシムル所デアツテ、其ノ取引トシテノ性質中ニハ甚ダ此ノ遇然ニ依リ僥倖ヲ得ムトスルノ要素ヲ含ムモノデ、所詮健實ナルモノタルヲ得ナイト主張スル者ガアル。惟フニ遇然トハ人智ノ正確ニ豫定スル能ハザル所ノモノヲ意味スルノデアラウガ、此ノ遇然ヲ恃ムト云フコトハ之レ決シテ獨り定

12) D.Kohn, Der Getreideterminhandel. Wesen. Nationalökonomische Bedeutung. Einfluss auf das Getreidegeschäft. Leipzig, 1891. S. 123-126

期取引ニ於テノミ表ハレ來ルモノデアナイ。苟モ經濟行爲ヲ爲ス者ハ何レノ産業部類ニ屬スルヲ問ハズ必ズヤ偶然ニ待ツ所多イモノデアツテ、其ノ程度ノ差ニ至ツテモ一概ニ甲乙ヲ定ムルコトガ出來ヌ。

生産ノ各要素中偶然ノ性ニ富ムモノハ「自然」バカリ大ナルハナク、然モ彼ノ農業ハ其ノ生産ノ效果ヲ主トシテ自然ニ依テ支配セララルモノデアツテ、人力ノ如何トモスル能ハザル幾多ノ要件ノ來ツテ農生産ノ效果ヲ定ムルニ大ナル勢力ヲ振フモノタルヤ、絮説スル迄モナイ所デアアル。然ルニ又此ノ遇然の要素ハ決シテ獨リ自然ヨリ來ルモノデアハナク、彼ノ「市況」（コンジツツル）下稱セララルモノノ如キモ生産者ニ取ツテハ頗ル遇然のモノデアリ、其ノ狀況ノ如何ハ生産者自身ニ於テ之ヲ奈何トモスル能ハザルモノデアアルノニ、生産ノ結果ハ頗ル多ク此ノ市況ナルモノニ依ツテ決定支配セララルモノナルヲ忘レテハナラヌ。而シテ此事ハ獨リ農業ニ於テノミ然ルニアラザルコトハ勿論ノ義デアツテ工業生産ニ於テモ同様デアアル。果シテ農作ノ豊穰ナル可キヤ、果シテ工業製品ノ賣行十分ナル可キヤハ、其ノ豫定シ難ク從テ生産者ノ意思ニ無關係デ甚ダ遇然のナルコト、毫モ定期取引ニ於ケル將來ノ事情ノ豫定シ難ク從テ取引當事者ニ取リテ遇然のナルト選ブ所ナキノミナラズ、其ノ

程度ノ差ニ至ツテモ眞ニ五十歩百歩デアアル。

元來遇然ナルモノハ二種ニ表ハレ來ルモノデ、一ハ即チ生産セラルル財貨ノ物質的内容ノ上ニ働キ、他ハ即チ財貨ノ價格ニ影響ヲ及ボスモノデアアル。而シテ農業ハ此ノ兩方面ノ支配ヲ受クルモノデアアルガ、商業ニ於テ表ハレ來ルモノハ獨リ後者ノミニ限ラルル。此ノ後者ハ換言スレバ即チ之レ市況其物ナリトモ謂フコトガ出來、又市況ガ有スル本來ノ性質タリトモ謂ヒ得キデアアル。何レニシテモ經濟ノ各方面ハ多少トモニ兩者ソノ何レカノ意味ニ於ケル遇然ノ支配ヲ受ケザルモノトテハナク、遇然ヲ條件トシテ事ノ成敗ヲ定ムルモノ獨リ定期取引ニハ限ラス。(13)

要スルニ將來ノ豫定シ難イト云フ事ヤ、遇然ヲ條件トスルト云フコトヤノ理由デ以テ定期取引ヲ非トシ之ヲ否認シ排斥セムトスルハ、甚ダ穿タナイ議論タルヲ免レヌ。吾人ハ此等ノ理由ヨリシテダケノ事デ以テハ定期取引ノ正當ナル根據ヲ覆スコトハ出來スト信ズル者デアアルガ、然シ其ノ定期取引ト云フハ先ニ述ベタル適法ナルモノノミニ限ラルルヤ言ヲ俟タス。

六 定期取引ノ利弊

穀物定期取引ノ利點トシテ先ヅ致フ可キコトハ、定期取引アルガ爲ニ穀物ハ最大ノ市場ヲ有スルヲ得、其ノ需要ト供給トハ經濟ノ各方面ニ與ハル人々ヨリ集リ來ルト云フコト之デアアル。即チ供給ニ於テハ定期取引市場ニ集リ來ルモノハ啻ニ現ニ存在スル生産サレタルモノノミナラズ、未ダ生産セラレザルモノモ能ク其ノ供給中ニ加ハルヲ得ルト同時ニ、需要ニ於テハ穀物ノ消費ハ一國內ニ在リテモ世界全體ニ涉リテモ凡ソ其量ノ知ラレテ居ルモノデアアルカラ、茲ニ穀物ノ價格構成ハ國民經濟的ニ若クハ世界的ニ之ヲ見テ略ボ時ノ穀物ノ實際ノ需給關係ニ依リテ定ル所ニ近似スルヲ得ルモノデアアル。而シテ之ガ爲メニ穀物ノ需要者ハ其必要トスル量ヲ何時ニテモ正當ノ價格ニ於テ容易ニ取得スルヲ得、他方又穀物ノ生産者ハ一時ニ多量ノ供給ヲ爲スコトノ爲ニ俄カニ市價ヲ下落セシムルコトヲ恐ルルノ必要ナクシテ何時ニテモ思フガ儘ニ之ヲ市場ニ提供スルコトガ出來ル。

穀物定期取引ハ啻ニ右ノ如ク穀物ノ最大市場ヲ造リ出スノミナラズ、技術的ニ之ヲ見テ完全ナル市場ヲ造リ得可キモノデアアル。即チ穀物ハ一定品質ノ下ニ數量ヲ限リテ取引セラルル代替物トシテ取扱ハルルガ爲ニ、頗ル其ノ個別的性質ヲ失ヒ、具體的貨物ヨリシテ抽象的貨物ト化スルコトトナル。從テ其ノ取引ハ甚ダ以テ

容易トナリ、頗ル大量ノモノガ短時間内ニ極メテ簡單ニ賣買取引セラレ、然モソガタダ見本ニ依リテ行ハルルノ結果トシテ現物ヲ無益ニ運搬スルノ費用ト損耗トヲ防グコトモ出來ル。

次ニ定期取引ノ大イナル利點トシテ一般ニ信ゼラルル所ハ、定期取引ガ取引貨物ノ輸入商之ヲ原料トスル製造業者若クハ其貨物ノ普通ノ需要者ニ對シテ、彼等ガ其ノ現物ノ賣買ヲ爲ス場合ニ其ノ價格變動ヨリ生ズル恐アル損失ニ對シテ一種ノ保險作用ヲ爲スト云フコト之デアル。例ヘバ茲ニ一穀物商アリテ八月ニ於テ米百石ヲ買フ契約ヲ爲シ十月ニ其ノ交付ヲ受クル筈ナリトセンニ、然ル場合ニ彼若シ十月迄ニハ現物ノ價格下落シテ此ノ賣買契約ヨリ損失ヲ被ルコトアル可シトノ恐ヲ懷クニ於テハ、彼ハ取引所ニ於テ直チニ此ノ百石ノ米ヲバ三ヶ月ノ定期ニ掛ケテ賣ツテ置ケバ、若シ時價ニシテ十月ニ果シテ彼ガ危懼シタ如ク下落スルニ於テハ彼ハ其ノ買ツタ現物ヲ十月ノ定期受渡ノ際ニ其ノ相手方ニ交付シテモヨケレバ、又賣リタル定期ヲ買戻シテ其ノ差金ヲ利得シ依テ以テ現物買取ヨリ生スル損失ノ填補ニ充ツルコトガ出來ル、而シテ若シ米價ガ彼ノ危憂ニ反シテ騰貴ヲシタ場合ニハ彼ハ定期取引ニ於テ賣ヲ買戻セバ差金ヲ損スルケレドモ其代リ曩

ニ買ツタ現物ガ騰貴シテ利得トナルカラ、彼ハ定期賣ヲ試ミタルコトノ爲メニ積極的ニ損失ヲ招クコトハナイ⁽¹⁴⁾

定期取引ハ之ヲ右ノ如ク利用スルニ依ツテ一種ノ保險ト爲スコトシ出來ルモノデアルカラ、歐洲ニ在リテ外國産穀物綿花ノ如キモ亦然リノ輸入ヲ爲スヲ業トスルガ如キ者ニ取ツテハ其ノ賣買契約ト現物受取トノ間ニ數月ヲ隔ツルヲ例トシ其間ニ穀價ハ大ニ變動ス可キガ故ニ之ニ依リテ意外ノ損失ヲ招クヲ免レムガ爲メニハ穀物ヲ定期取引ニ附スルヲ以テ安全トスルト云ハネバナラヌ。然シ我邦ニ在ツテハ穀物ノ輸入ハ歐洲ニ於ケルガ如ク盛デナク又國內ニ於ケル穀物現物取引モ大規模ニ之ヲ行フ者必ズシモ多ク取引所ヲ利用シテ着實ナル保險ト爲スコトヲシナイ。元來我國ノ取引所ハ既ニ之ヲ述ベタ如ク其ノ發達ノ初ヨリシテ現物取引ヨリ出デ來ツタモノデナク、從テ定期取引ハ現物取引ノ副作用トシテ行ハルルト云フヨリモ、主トシテ専ラ相場ノ變動ニ依ル轄ヲ利得セムトスル空取引ヲ爲スヲ旨トスルモノデアルカラ、今日ト雖トモ堅實ナル商人ハ定期取引ニ指ヲ染ムルヲ嫌ヒ、世間モ亦定期取引ニ關係スルヲ一種ノ惡德視スルノ風ガアリ、從テ取引所ハ右等ノ如キ經濟上ノ働ヲ爲スコト渺ク殆ンド全ク賭博的投機ノ場所タル

14) Dr. K. Wiedenfeld, a. a. O. S. 43 ff.
Dr. J. Grunzel, a. a. O. S. 170.
Dr. A. Buchenberger, a. a. O. S. 256 fg.
F. Hammerfahr, a. a. O. S. 42 fg.

ガ如キ觀アルハ、洵ニ慨ハシキコトト云ハナケレバナラス。成程歐洲諸國ニ於テモ亦着實ナル現物商人ハ多ク定期取引ニ與ハラズ之ニ與ハルヲ欲セザルノ風ガ無イデハナイガ、事情ハ我國ニ於テ特ニ甚シキモノアルヲ否ムコトガ出來ヌ。

惟フニ若シ定期取引ニシテ現物取引ノ副作用トシテ行ハルル所鮮ク、タダ投機ヲ專ラニセムガ爲ニ行ハルルモノタルニ於テハ、取引所ノ效能ノ隨一タル價格ノ公正ナル決定ト云フコトモ、實際ノ需要ト供給トガ湊合スルニ依ツテ出來ルノデナクテ、空ナル假相ノ需給ノミガ無暗ニ多ク輻湊スルコトトナル結果トシテ其間ニ定ル價格ハ必ズシモ公正ナル現實的ノモノタルヲ得ナイデ却テ偏派ナル架空的ノモノトナルヲ避ケ難イ。特ニハ斯ク定期取引ガ專ラ賭博的投機ノ機關タル實ヲ備フルコトトナルト、之ニ與ハル者ハ信用ナキ資力薄キ然モ亦其ノ徳性ノ如何ハシキ者ノミトナツテ、其ノ取引ハ兎角狂暴ニ赴キ資力不相應ノ投機ガ盛ニ行ハレテ害毒ヲ流スハ勿論、相場ヲシテ唯ダ投機者流ニ都合好キモノタラシメントスルノ結果、盛ニ流言蜚語ヲ放チ又新聞紙ナドヲ買收シテ都合好キ虚構ノ記事ヲ掲ゲシメ、又賣方若クハ買方ガ迎合一致シテ賣崩買收ヲ試ムル等、種々ノ惡辣手段ニ依ツテ相場ヲ左右セムトシ、爲メニ經濟界ノ正調ヲ紊シ、價格ノ亂高下ヲ來タシ、需

給ノ齊整ヲ得セシメズ、頗ル憂フ可ク惡ム可キ結果ヲ齎スコトトナルヲ免レ難イ。要スルニ定期取引ナルモノハ之ヲ利用スル人ト道トノ良キト惡キトニ依テ利弊何レトモ相岐ルルモノデアルカラ、抽象的ニ其利ヲ説キ其弊ヲ擧ゲテ見タ所デ多ク益スル所ガナイ。所詮ハ之ヲ現實ノ狀態ニ就テ判斷スルノ外ハナイ。

之ヲ實際ニ徵スルニ、歐米ノ穀物取引所ニ於テハ投機取引ノ爲メニ穀價ノ亂高下ヲ來スコト常ニ之ヲ見ル所デアツテ、紐育市俄古、リヂヂ、あーぶー、伯林、ぶだべすと等ニ於テ行ハルル小麥ノ定期取引高ハ優ニ全世界ノ小麥産額ニ數十倍スルノ有様ヲ呈シテ居ル。即チ此等ノ取引市場ニ表ハレ來ル小麥供給量ハ大抵之レ架空ノ供給デアツテ實際ノ現物供給量トハ殆ンド何等ノ關係ヲ有セザルガ如ク甚シキ場合アルヲ否ムコトガ出來ヌ。斯クテ此等ノ取引市場ニ於ケル定期取引ハ大多數ノ學者爲政治家等ニ依ツテ非難排斥セラレツツアル有様デアアル。我邦ノ取引所亦此ノ譏ヲ免レ難ク、穀物定期取引ガ十ノ九以上空取引デアツテ賣買契約高ニ對スル現物受渡高ノ比例ノ如キ僅カニ百對三乃至四ニ過キザル有様⁽¹⁵⁾ナルガ爲メニ其ノ相場ハ甚ダ實際ノ需給關係ニ適合セズ極度ニ悲觀シ極度ニ樂觀シ、供給ノ過不足共ニ頗ル之ヲ誇張シテ價格ノ突飛ナル騰落ヲ誘致シテ、結局取引所ハ相場ノ

15) 田中氏日本取引所論二九九頁以下

公正ナル決定ヲ爲ス機關タリト云フヨリモ、寧ロ却テ其ノ不調和亂高下ヲ生ゼシムルノ働ヲ爲シツツアリトノ非難ノ必ズシモ適當ナラザルヲ見ル次第デアアル。是ハ洵ニ忌ム可キ所デアツテ取引所改善ノ一日モ速ニ且ツ有效ナランコトノ切實ニ希望セララルル所以デアアル。

穀物定期取引論ヲ爲スニ就テハ、定期取引が穀價ニ及ボス影響、特ニ定期取引ニ依ル取引所ノ相場ト穀物現物ノ價格例(ヘバ正米相場)トノ關係ニ就テハ、十分ナル講究ヲ試ミネ、バナラヌノデアアルガ、本篇ニ於テ之ヲ爲スハ餘リニ長文トナルノ嫌ガアルカラ、是ハ後日獨立ノ論文トシテ公ニスルトトスル。